滋賀県感染症発生動向調査事業実施要綱に基づく感染症発生動向調査事業

平成 21年 8月 (第32 ~ 35週) 発行年月日:平成21年(2009年)9月24日 行:滋賀県衛生科学センター内 滋賀県感染症情報センター 077-537-7438 FAX 077-537-5548

SHIGA Infectious Diseases Report

# 1)全数報告の感染症(一類~五類)

(滋賀県感染症情報)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。 このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められたー~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型		平成 21年				平成 20年*1		== : : : : = : = : = : = : = : = : = :			平成 21年				20年 <sup>*</sup>
	疾 病 名	1~7月		8月		1~12月		感染症 類型	疾 病 名		1~7月		8月		12月
		滋賀県	全 国	滋賀県	全国	滋賀県	全 国	規型		滋賀県	全 国	滋賀県	全国	滋賀県	全国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0		-	四類	ニパウイルス感染症	0	0	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		_	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	44	0		0	13
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	0	0	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	
	ペスト	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		ブルセラ症	0	1	0	0	0	
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	2		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	
	結核	168	15,387	21	2,196	282	28,419		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1) (*)	0	0	0	0	0	0		マラリア	0	36	0	7	1	
三類	コレラ	0	6	0	1	0	45		野兎病	0	0	0	0	0	
	細菌性赤痢	0	99	0	16	*23	320		ライム病	0	2	0	3	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	7	1,594	8	675	53	4,322		リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	
	腸チフス	0	19	0	1	0	57	1	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	
	パラチフス	0	13	0	2	0	27		類鼻疽	0	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	1	27	0	6	0	43		レジオネラ症	4	398	0	64	10	8
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0		レプトスピラ症	0	6	0	0	0	
	A型肝炎	0	81	0	6	3	170		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	
	エキノコックス症	0	15	0	0	0	22	五類	アメーバ赤痢	8	477	1	56	10	8
	黄熱	0	0	0	0	0	0		ウイルス性肝炎	1	127	0	24	5	- 2
	オウム病	0	14	0	1	0	9		急性脳炎	1	135	0	21	1	,
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	12	0	0	0	
	回帰熱	0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	2	72	0	14	2	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	2	77	0	3	1	1
	Q熱	0	2	0	0	0	3		後天性免疫不全症候群	5	880	2	109	11	1,5
	狂犬病	0	0	0	0	0	0		ジアルジア症	0	49	0	4	1	
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	1	2		髄膜炎菌性髄膜炎	0	9	0	0	0	
	サル痘	0	0	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0		梅毒	0	430	1	49	5	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0		破傷風	2	61	0	8	5	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	55	0	12	0	
	つつが虫病	0	105	0	2	0	442		風しん	2	113	0	13	2	:
	デング熱	0	36	0	11	2	104		麻しん	2	528	3	66	39	11,
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	新型イン	**************************************		4.000				广
	鳥イン フルエンザ	0	0	0	0	0	0	1ノルエン	新型インフルエンザ(H1N1) <sup>(**)</sup>	25	1,033	113	9,894	-	1 -

# \*1感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター) \*2検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含む

#### 滋賀県における全数報告感染症の概要 (8月)

#### <結核>

性別:男性 11名、女性 10名 類型:患者 17名 疑似症 1名 無症状病原体保有者 3名 病型:肺結核 15名

#### その他の結核 6名 <腸管出血性大腸菌感染症>

性別:男性 4名、女性 4名 年齢:2歳、4歳、11歳、25歳、48歳 55歳、55歳、90歳 血清型·毒素型:

O157 · VT1&VT2 1名

7名 O157 · VT2

**<アメーバ赤痢>** 男性 58歳 推定感染経路は不明で、推定感染地 域は日本国内です。

## <後天性免疫不全症候群>

男性 35歳、39歳

推定感染経路は同性間性的接触およ び不明で、推定感染地域は日本国内お よび不明です。また、病名は2名ともAIDS です。

#### <梅毒> 男性 31歳

推定感染経路は同性間性的接触で、 推定感染地域は日本国内です。

#### <麻しん>

男性 65月、29歳、女性 115月

推定感染経路は飛沫・飛沫核感染およ び不明で、推定感染地域は日本国内およ び中華人民共和国です。ワクチン接種歴 は2回とも無しまたは不明です。

# 2)定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数 / 定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

## 8月の概要

#### <インフルエンザ>

第33週(8/10~8/16)の定点当たり患者数は2.52となり、保健所管内別では大津市および草津で多くなっていました。また、定点当たり 患者数が流行開始の目安である1.00を超えたため流行シーズン入りとなりました。なお、全国における流行シーズン入りは第34週(8/17~8/23)でした。

新型インフルエンザ発生の把握方法は、7月24日以降、患者の全数把握からクラスター(集団発生)把握に変更となりました。7月24日から8月30日における保健所管内別の発生状況は下記のグラフのとおりです。

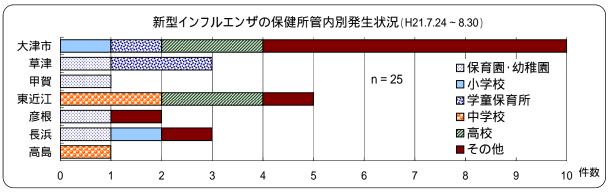
## < 小児科定点疾患 >

先月より微増を示した疾患はRSウイルス感染症のみで、他の疾患については全て減少していました(疾患の発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。手足口病については第32週(8/3~8/9)に甲賀で、第32~35週(8/3~8/30)に高島で警報終息基準値(定点当たり患者数 2.00)を超えていました。また、ヘルパンギーナについては、高島で第32~35週の間、連続して警報終息基準値(定点当たり患者数 2.00)を超えていました。

## <眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月よりかなり減少し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。また、基幹定点疾患では クラミジア肺炎以外で先月より増加していました。細菌性髄膜炎は東近江から、無菌性髄膜炎は長浜から、マイコプラズマ肺炎は甲賀および長浜からの報告が多くなっていました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

# クラスターサーベイランスにおける新型インフルエンザの発生状況(平成21年7.24~8.30、滋賀県)



保健所管内別のクラスター(集団発生)の発生件数は、大津市で最も多く、次いで東近江となっています。集団の属性で「その他」には、大学、塾およびスポーツクラブを含みます。

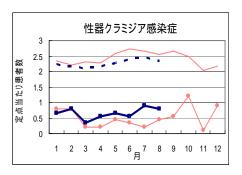
< 各定点の対象疾患 >

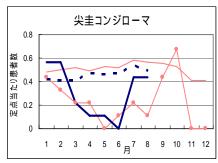
定点	疾患名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱
	A群溶レン菌咽頭炎、水痘
	感染性胃腸炎、手足口病
	伝染性紅斑(リンゴ 病)、百日咳
	突発性発 しん、ヘルパンギーナ
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎
	流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎
	マイコプラズマ肺炎
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)

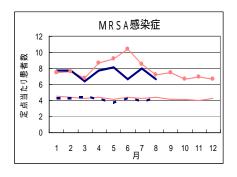
全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(http://idsc.nih.go.jp/index-j.html) において公表されています。

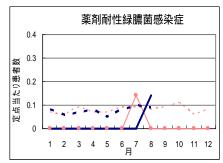
# 3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 21年 8月)

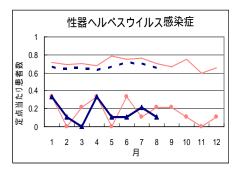
疾 患 名	区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	合 計
性器クラミジア感染症	罹患数	6	7	3	5	6	5	8	7					47
注品グラミング燃米症	定点当たり	0.67	0.78	0.33	0.56	0.67	0.56	0.89	0.78					5.24
性器へルペスウイルス感染症	罹患数	3	1	0	3	1	1	2	1					12
注給ババスグイルス窓朱征	定点当たり	0.33	0.11	0	0.33	0.11	0.11	0.22	0.11					1.32
尖圭コンジローマ	罹患数	5	5	2	1	1	0	4	4					22
大王コノブローマ	定点当たり	0.56	0.56	0.22	0.11	0.11	0	0.44	0.44					2.44
淋菌感染症	罹患数	0	1	1	6	3	0	6	2					19
<b>州国</b> 忍未准	定点当たり	0	0.11	0.11	0.67	0.33	0	0.67	0.22					2.11
メチシリン耐性	罹患数	54	54	45	54	57	47	56	47					414
黄色ブドウ球菌感染症	定点当たり	7.71	7.71	6.43	7.71	8.14	6.71	8.00	6.71					59.12
ペニシリン耐性	罹患数	2	2	0	1	2	3	1	0					11
肺炎球菌感染症	定点当たり	0.29	0.29	0	0.14	0.29	0.43	0.14	0					1.58
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	0	0	0	0	0	0	1				•	1
宋月川江水版图念朱征	定点当たり	0	0	0	0	0	0	0	0.14					0.14

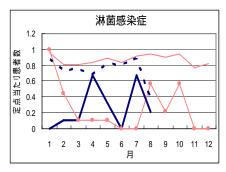


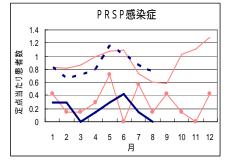












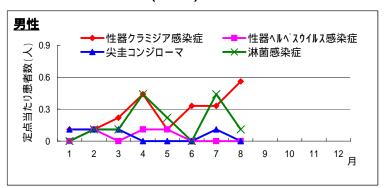


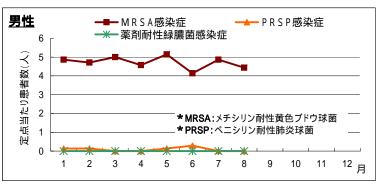
性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると薬剤耐性緑膿菌感染症は増加し、尖圭コンジローマは横ばいとなっていますが、他の疾患については減少しています。特に、淋菌感染症では先週よりかなり少なくなっています。

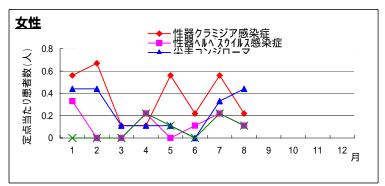
# 性感染症定点における疾患別発生状況

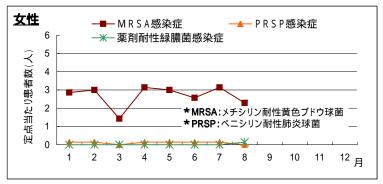
基幹定点における疾患別発生状況 (H21.8)

(H21.8)



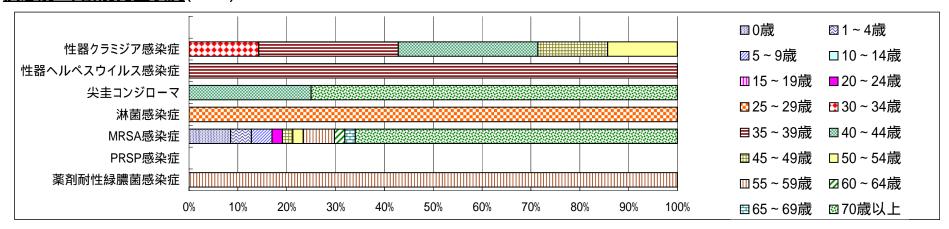




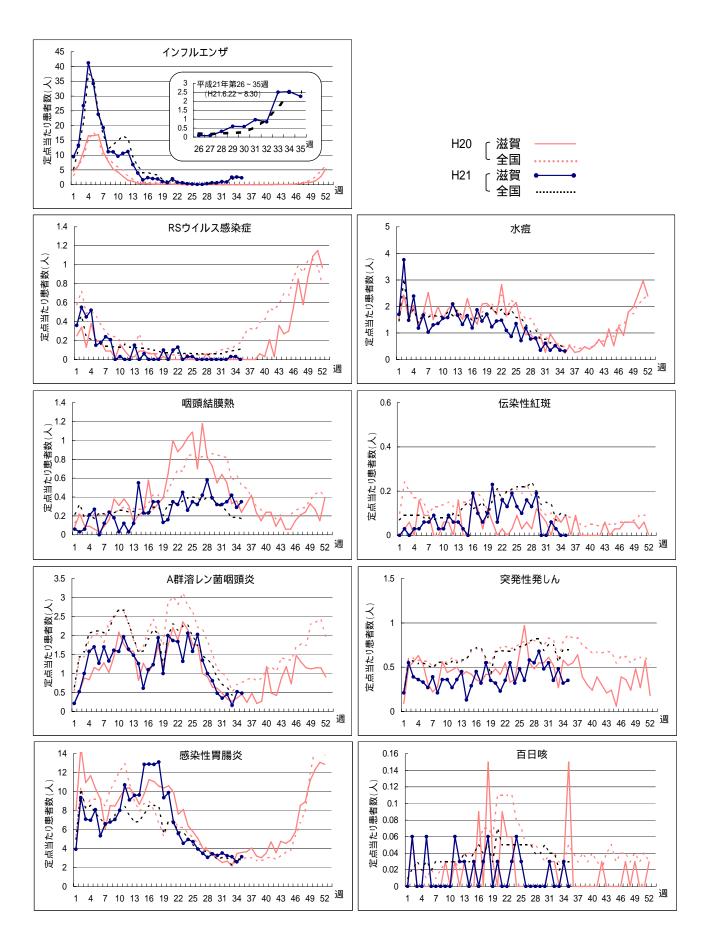


また、各疾患の年齢別発生状況は下記のグラフのとおりです。性器クラミジア感染症では40~54歳での発生が、 尖圭コンジローマでは70歳以上の発生がやわるくなっています。

# 疾患別·年齡別発生状況(H21.8)



# 疾病別定点当たり患者数(平成21年第1~35週、H20.12.29~H21.8.30)



# 疾病別定点当たり患者数(平成21年第1~35週、H20.12.29~H21.8.30)

